

地球温暖化の 影響を考える

連合農学研究科では、『地球温暖化の影響を考える』をテーマに、構成大学である静岡大学の協力を得て、高温によるイネの不稔現象、湖沼や森林の生態系に及ぼす影響について講義し、環境に興味を持つ方を対象として、農業生産環境、自然生態環境に与える地球温暖化の影響を科学的に理解することの重要性をお伝えします。

【日 時】平成26年 **10月18日** 土 12:45~16:20 (受付12:00)

【場 所】河合塾岐阜校 7階 71教室 【対象者】一般・高校生 (環境や自然に興味のある方)

挨拶 12:45~13:00

千家 正照 : 大学院連合農学研究科長

第1部 温暖化がコメの品質と稔りにおよぼす影響と対策 13:00~14:00

【講 師】松井 勤 : 岐阜大学応用生物科学部 教授

地球の温暖化は、農業生産に大きな影響をおよぼしつつあると考えられています。コメでは、すでに気温の上昇によると考えられる品質の低下が顕在化しています。さらに温暖化が進行すると、不稔の発生が頻発し、収量が不安定になったり、低下したりする可能性があります。高温による品質の低下に対して行われてきた対策、高温による不稔発生の仕組みと高温に強いイネの形について解説します。

第2部 地球温暖化と湖生態系 14:10~15:10

【講 師】吉山 浩平 : 岐阜大学流域圏科学研究センター 助教

生態系とは、環境と生命の間でエネルギーと物質が循環し成立するシステムです。環境を構成する気温・水温や降雨、風の変化は、生態系を変化させ、時に回復不可能な影響を与えます。近年、気候が変化し地球が暖まりつつあります。その一方で、世界中で都市化・工業化が進み、過剰な化学物質が排出されています。それではこれらの変化は、生態系へどのような影響を及ぼすのでしょうか。本講座では、湖を題材として、地球温暖化が生態系に及ぼす影響について考えます。

第3部 温暖化による森林生態系の変化・応答 15:20~16:20

【講 師】橋本 正明 : 静岡大学大学院農学研究科 准教授

温暖化は重要な環境問題のひとつであり、温暖化に伴うその他の気候変動への影響も指摘されています。陸上植物の植生分布は、温度や降水量など環境要因によって決定されており、温暖化に関連する環境要因の変化は植生分布やその機能に影響を及ぼすと考えられます。森林を含めた陸上生態系が持つ環境調節機能について紹介しながら、温暖化による生態系およびその機能への影響について考察します。

申込不要
入場無料
テーマ毎の
参加OK

【岐阜大学大学院連合農学研究科】

岐阜大学と静岡大学で構成する博士課程の大学院で、農学分野を中心に研究・教育活動を行なっています。この講座は、本研究科が中心となり、構成大学の岐阜大学応用生物科学部、静岡大学大学院農学研究科の協力を得て行ないます。



【主 催】岐阜大学大学院連合農学研究科 構成国立大学法人 (岐阜大学・静岡大学)

【協 賛】河合塾岐阜校

【お問い合わせ】TEL 058-293-2984 E-mail renno@gifu-u.ac.jp